

「時代の転換」をけん引するデジタルの力

～新たな時代をどのように生きるか～

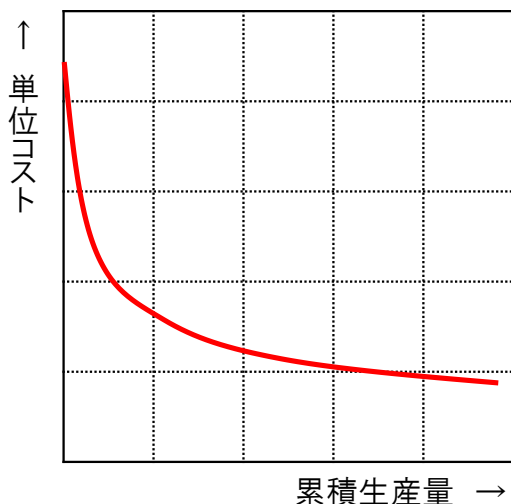
新型コロナウイルス感染症が世界に蔓延し、国による対応の巧拙によって、国民の心身の健康状態や経済の復活度合いに格差が広がっています。文字通り『コロナ・デバイド(コロナによって生じた格差)』の様相です。我が国では、「デジタル化の遅れ(発展途上国並み)」、「国家として、あるいは地方自治体としての危機管理の脆弱さ」、さらには『政治家のレベルの低さ(人材不足と危機感を反映しない政治家の厚遇システム)』等々、いみじくも今後の重要課題が洗い出されたところでは。何とか、「禍を転じて福となす」ことで、コロナによって失われた長い時間を取り戻し、活力低下が著しい我が国にとって『**時代の転換期**』としたいところです。

さて、最近、スポーツや文化の世界でも『**時代の転換期**』を痛感する出来事がしばしば発生しています。東京オリンピックの新種目、スケートボード(パーク・ストリート)女子では、12歳の開選手を筆頭に13歳の西矢選手ほか、4人のメダリストは全員が10代であったことは記憶に新しい。また、直近では、将棋の藤井聡太さんが19歳にして三冠に輝いたことなど、様々な分野で“**早熟化**”が顕著になっています。一体何が起きているのでしょうか? もちろん、ご本人のとび抜けた才能や豊富な訓練が存在していたことは間違いないところでは、それだけでは“**早熟化**”の説明は困難です。



この問いに接したとき、私は、近年疑問視されている経済の法則を思い出しました。『**経験曲線効果**(experience curve effect)』は、モノづくりにおいて、「累積生産量が増加するにつれて(人や組織の熟練度アップに伴って)、単位当たりの生産コストが一定の割合で低下していく」というものであり、一般的に、累積生産量が2倍に増えると、単位当たりの生産コストが ▲20%～▲30%低減すると説明しています。ところが、近年の半導体等の装置産業では、高額な製造装置を導入することで、一気に(時間を要せずに)先駆者の製造コストにキャッチアップできるという事実が判明しています。つまり、製造装置を購入することで、“装置”に蓄積されている「経験(≒時間)」を獲得できるということです。

経験曲線効果 (experience curve effect)



$$C_n = C_1 X^{-a}$$

C_n : n番目の商品の製造コスト

C_1 : 1番目の商品の製造コスト

X : 累計の生産回数

a : 累積生産量のコスト弾力性

(累積生産量の変化率/コストの変化率)

さて、話をもとに戻すと、昨今のスポーツや文化の早熟化の背景には、機械化ならぬ「デジタル化による経験の習得」があるように思います。スポーツでは、「優秀な選手の演技を360度アングル・精細・スロー可の映像」で研究し、自分の映像との対比検証なども容易にできます……アナログ時代に青春を生きた私たちが何十年も費やして、盗むようにして手に入れた先輩たちの技を、今や、いとも簡単に入手できるのです。感覚的には、アナログ時代の10年は、現在の1日程度に相当するのではないのでしょうか。それが“早熟化”の原動力になっているのです。同様に、将棋の世界でも、先人たちが長い年月をかけて色々なライバルたちと対局することで身に付けた経験を、今や、デジタルデータをゲーム感覚で入手可能になっています。つまり、「経験(≒時間)」をデジタルの力により、誰もが入手できる時代になったということでしょう。まさに『時代の転換期』にあることを実感する出来事です。

ここで、長年、空手に勤しんできた者は、私も含め、2つのことに気づかねばなりません。

1) 「道場」という場の存在意義(アイデンティティ)を再確認すること

デジタル技術により、映像や音声などで簡単に技術習得できるとすれば、わざわざ道場に集まる意味が問われることになります。「わざわざ道場に集まることの意義」を改めて定義する必要があります。

2) 「空手」という武道自体の意味(目的)を再確認すること

世界中の優秀な選手の演技や動きを簡単に入手できることで、競技空手の世界では、見た目の動きは比較的簡単に真似ることができるでしょう。では、「見た目の動きを超える空手(見た目だけでは実現できない武道の世界)」とは何かを改めて追求する必要があります。

近年の革新的技術は、私たちの暮らしや仕事を効率的なものに変革してくれていますが、一方で、時間を費やして、アナログ的に積み上げていくべきものを喪失しているのではないかと懸念しています。

私たちも、コロナ禍を契機として、将来につながる「時代の転換期」を具現化したいものです。

2021年10月1日



大聖館 創立20周年おめでとう！！
さらなる飛躍を目指して頑張ってください。



日本空手道錬聖会
会長 森 拓生